

「自分らしくいられる未来へ」

日南市立榎原中学校 2年 ^{せとぐち むね}瀬戸口 ^{ひと}宗 仁

「誰もが自分らしく生きられる社会を」最近、このフレーズをよく耳にしませんか？
少し前の日本では、「男のくせに」「女のくせに」という心ない言葉を浴びせられ、「男だから」「女だから」といった根拠のない理由で諦めていたものが、たくさんあったのではないのでしょうか？

私の母は海外出身で、私も幼い頃からよく飛行機を利用していました。小さな窓から広がる世界中の美しい景色。空にいることを忘れるほどの心地よい接客。そんな飛行機が私は大好きでした。しかし、小学校入学前に乗ったのを最後に世界中でコロナウイルス感染症が流行し、私たちの生活は一変しました。あれ以来、飛行機に乗ることができないまま時は流れていきました。そして、その日は、突然やってきました。小学校6年生の冬休み。5年ぶりに母の実家に帰省するため、大好きだった飛行機を利用する機会が訪れたのです。

あの日も「Would you like something to drink?」「您需要哪种饮料?」と色々な国の人へスムーズにサービスを行い、流暢に母国語以外の言語を話すCAの方の姿を見て、幼い頃に抱いた「自分もこんなCAになりたい。」という思いが、再び私の頭をいっぱいにしました。

ところで皆さんは、私の夢を聞き「キャビンアテンダント」は女性の職業では？と聞いていませんか。私も最初は、男性ではCAになれないと思っていました。でも、インターネットで調べていくうちに男性でもなれることが分かりました。すでに外国の航空会社では、数多くの男性CAが在籍しており、なんと60年以上前から採用されていることが分かりました。このことから男性CAはいなかったのではなく、CA＝女性の職業という印象に捕らわれていた私が、男性CAがいたことに気づいていなかったのだと確信したのです。そんな中、昨年、LGBTQの講演を聞く機会がありました。その中で制度は少しずつ前進しているものの、社会の理解や職場や学校の実態は、まだまだ追いついていないというのが現状であることを聞きました。しかし、飛行機には様々な背景を持つ世界中の乗客がいます。そんな乗客に寄り添える職業こそがCAだと私は考えます。おもてなしや相手を思いやる優しさに性別は関係ないのです。

そのことがあってから、私はCAになるために他に何が必要なのかを調べ始めました。そこで目にしたのは英語力です。だから中学3年生までに、英語検定準2級を取得することを目標にしました。両親もこの夢をとて応援してくれており、英語検定がある日は「将来のために頑張って」と応援してくれます。この期待に応えるためにも夢を叶え、世界中の人々とのコミュニケーションを楽しみながら、相手を思いやり、日本の良き文化も伝えられるCAを目指します。

私たちにできることは、真実を知り、正しい理解の下自分らしく生きていくことだと思います。今後、同じ世代の人々が、夢を実現する際に不安やためらいを感じ、あきらめることがないよう、社会の理解と職場の環境整備が進むことを願いつつ、私は世界で一番近くに居る「安心」となって、安全な空の旅をお届けすることを誓います。将来、皆さんが乗った飛行機に、もしかしたら私が搭乗しているかもしれません。

「お飲み物はいかがですか?」「Would you like something to drink?」